

サクラマス増殖振興事業

(抄録)

伊藤 欣吾 ・ 松宮 隆志 ・ 川村 俊一

1. 分布回遊調査（沿岸分布回遊調査）

a 標識幼魚分布調査

青森県日本海側の追良瀬川と太平洋側の老部川において、春季1⁺スモルト幼魚の標識放流調査を実施した。幼魚は北海道太平洋側を北上し、夏季にはオホーツク海に到達したと推定され、冬季には南下し津軽海峡付近で越冬することが確認された。

b 幼魚混獲調査

青森県日本海～津軽海峡～太平洋北部の一部の定置網漁業者に対して定置網に混獲されるサクラマス幼魚の採集を依頼し、幼魚の混獲状況、標識魚の混入率を把握するとともに、食性や降海時期等について検討した。青森県日本海側のサクラマス幼魚は、4月末の新月以降の5月上旬に降海したものが多くと推定された。幼魚の食性は日本海側ではイカナゴが96%、太平洋側ではアミ類と甲殻類が54%と両海域での餌料環境の違いが示唆された。

c 生息環境調査

サクラマス幼魚が降海する春季に、自記式水温計で水温環境を、LNPネットと新型稚魚ネットで餌料環境を調査し、日本海沿岸と太平洋沿岸とを比較した。日本海沿岸の水温は太平洋沿岸より常時1～3℃程高かった。動物プランクトンの分布量は太平洋沿岸の方が日本海沿岸より多かった。また、動物プランクトンの分布量のピークは日本海沿岸の方が太平洋沿岸より1ヵ月ほど早かった。

d 幼魚採集漁具開発調査

サクラマス幼魚の分布等を調査するための採集漁具の開発を目的として、サンマ浮き刺網の漁獲試験を実施した。延べ10回の試験を行ったがサクラマス幼魚は採集されなかった。

2. 増殖基礎調査（沿岸漁獲量調査）

a 標識魚混入率調査

白糠、大畑町、大戸瀬及び深浦漁協に水揚げされたサクラマスの標識の有無を把握するとともに、回帰率の推定を試みた。本県放流魚と思われるサクラマスの沿岸及び河川への回帰率は2.14%と推定され、1988年以降減少傾向にあり最低であった。一方、老部川への回帰率は0.42%と1989年以降では例年並みであった。

b 漁獲量調査

青森県内56漁協に対しサクラマスの月別漁法別銘柄別の漁獲量、漁獲金額及び漁獲尾数の報告を依頼し、漁獲動向を把握した。1995年のサクラマスの漁獲量は251トン強、金額は3億円弱、尾数は20万尾強であった。1980年以降のサクラマスの漁獲動向は、太平洋側では増加傾向、津軽海峡では横這い、日本海では1985年以降減少している。この要因として種苗放流の効果と回遊経路の変化が考えられた。